2019 年度　近江ちいろば会の事業報告

1. 主な取り組み

●新型コロナウィルス感染防止対策に取り組む。

第 4 四半期以降、新型コロナウィルス感染が全国的に拡大していく中で、各事業所では感染予防の対応として、職員全員のマスク着用や出入り口での検温、手洗い、手指消毒の実施徹底や食堂やフロアのテーブルにはパーテーションを設置するなど考えられる施策を講じた。また、入居事業所ではご家族等の面会を自粛いただくこととした。さらに感染予防や万一の感染者発生時の対応策などについて職員教育にも注力した。

●訪問リハビリテーションを本格的にスタート。

ぼだいじ看護ステーションの理学療法士、作業療法士による訪問リハビリテーションを 4 月よりスタートした。

●地域貢献活動として、

＊独居のデイサービス利用者様を中心に「配食弁当」を継続し、食の安心安全を提供。

＊地域密着型デイサービスセンターでの「健康教室」「映画会」「音楽会」の開催や認知症デイサービスセンターの一室活用による「地域のわが家」にて認知症カフェ「つどい café」を開催してきた。

＊ひとり歩き発見保護訓練(5 年連続)や各地域のフェスタ等に参加

当法人からも約 20 名が参加し、菩提寺区の皆様と認知症啓発活動に取り組んだ。
また、ぼだいじまちづくりフェスタやみなくちのわいわいフェスタなどにも参加し、利用者様が作られたお菓子などの販売を行った。

●定年延長

職員の雇用安定とキャリアアップのため法人の正規職員の定年を 65 歳に引き上げた。

●人材育成

＊デイサービス管理者交流会(2 回)を実施。

6 ヶ所のデイサービスの管理者が事業所の強みや課題等の情報交換を行い、事業運営に役立てることができた。

＊管理者研修、主任研修、非常勤研修を実施

管理者研修、主任研修では榊原　昌宏氏による「介護現場をよくする管理職の仕事とやりがい」と題したテーマで管理者、主任がその目標を達成するための取り組みや職員定着のノウハウ等を学習した。

＊業務改善活動の取り組み(5 月～2 月)

QC 手法を活用して、各事業所の課題解決を図ることを目指した活動で、今年度で 12 年継続できている。活動成果発表会では、地域の区長、民生委員の方々などにもご参加頂き、法人の取り組みをご理解頂く、貴重な機会となった。

＊対外研修発表会に参加

各職場で取り組んだ事例を発表し、職員の意欲向上、自信に繋がった。

・近畿老人福祉施設研究大会　　ケアハウス「ピスガこうせい」
・滋賀県作業療法学会　　ぼだいじ訪問看護ステーション
・在宅死亡に関する研修会　法人
・滋賀県福祉学会　　ゆめとまの家おしどり

＊外国人留学生を支援

フィリピンからの留学生 2 名が華頂社会福祉専門学校において介護福祉士資格を取得するための支援を行う。

●外国人雇用

2019 年 4 月から留学生 2 名をアルバイトとして雇用(週 28 時間以内)。職場では、入居者様、職員とコミュニケーションをとりながら事業運営への貢献度は高い。

●設備投資

＊ケアハウスでは、wifi 導入によるナースコールの更新を行い、職員対応の機動力向上と全館でのインターネット環境を整備することで入居者、職員の満足度が向上した。

＊デイケアの家おしどりの土地、建物を取得するとともに浴室の改修工事を行い、利用者様へのサービス向上が図れた。

＊Windows7 のサポート終了に伴い、法人内のパソコン約 45 台の更新を行った。

各事業所からの報告

1)法人本部

・法人のブランディング向上のため、継続したブログへの各事業所の情報をタイムリーに発信、さらには人材確保に向けてのインスタグラムも立ち上げた。

・新卒採用では、2 年連続で高卒者 2 名を採用することができた。

・発議書をインターネットで決裁できるジョブカンシステムに切り替え、決裁の合理化、迅速化が図れた。

2)ケアハウス「ピスガこうせい」

・年間の平均入居者数は 49.4 人。自立支援の取り組みとして、「トランプの会」など小規模行事が定着した。

・他事業所との綿密な連携により受診など、早期の対応ができた。

3)ぼだいじデイサービスセンター虹

・デイサービスニュース、機能訓練ニュースの発行やブログの更新によりタイムリーに情報発信ができた。

・選択プログラムのメニューを増やすとともに機能訓練加算Ⅱの利用件数が増加した。

4)ぼだいじデイサービスセンターいこい

・調理プログラムなど様々な活動が定着するとともにご家族との信頼関係が図れ、利用者様の利用回数が増加した。

・スクールガードに参加するなど地域貢献がより図れた。

5)中央デイサービスセンターしんあい

・認知症の症状別に個性が発揮できる取り組み(生活レク)を継続して実施できた。また、湖南市あんしん相談員としても、若年性認知症の啓発などに取組めた。

・地域施設と合同で年 2 回の運営推進会議を開催できた。

9)ぼだいじ居宅介護支援センター

・ケース共有の時間が確保でき、職員間で連携をとることでリスクが軽減した。

10)ぼだいじホームヘルパーステーション

・訪問看護との連携、ターミナルの利用者様の訪問を積極的に受けることや生活援助、総合事業はエリアを広げ受注することで、全体的に訪問件数は前年度を上回ることができた。

11)グループホームぼだいじ

・恒例のお食事会を行い、入居者様やそのご家族と職員との距離感を縮めることができた。

・協力医院、訪問看護等の連携体制により、お二人の看取りを行うことができた。

12)小規模多機能型居宅介護事業所ぼだいじみんなの家

・個別体操の充実が図れ、個々の自立支援に取り組んだ結果、利用者様の活動量が増加した。

・公園の清掃活動やまちづくりフェスタに模擬店を出店するなど地域貢献が図れた。

13)ぼだいじ訪問看護ステーション

・訪問リハの本格スタートと職員の増員により訪問件数の増加が図れ、また利用者数も過去最高を記録した。

・難病や精神科の訪問により医療保険の利用者が増加した。

・新型コロナウィルスを中心に感染症予防対策のため積極的で有効な委員会活動を主導できた。

14)グループホームみなくちみんなの家

・「あやのワイワイフェスタ」の参加や自治振興会との協働、さらにはまちづくりネットワークへの参加など地域との交流を積極的に行えた。

15)デイサービスセンターみなくちみんなの家

・目的別体操や生活動作の実践的な体操を取り入れ、自立支援の強化が継続できた。また、訪問看護ステーションのＰＴ、ＯＴと連携し、機能訓練も強化できた。

16)ケアプランセンターみなくちみんなの家

・みなくちみんなの家として、あやのワイワイフェスタに積極的に参加できた。

17)デイケアの家おしどり

・生活リハビリの充実や機能訓練により利用者数が増加し、業績向上につながった。

・業務改善活動により職員の記録への意識改革や改善に結び付いた。

18)ゆめとまの家おしどり

・園芸療法と生活リハビリに機能訓練の視点を取り入れた活動が図れ、利用者増加につながり、過去 4 年間で最高の利用者数を達成できた。

19)総合事業ぼだいじるんるんクラブ

・年間を通して、健脚教室、体力測定、栄養講座、認知症勉強会、口腔勉強会を実施することができた。また地域のまちづくりフェスタに参加した。

20)総合事業ふれあいの家おしどり

・利用者様主体の行事を行い、会話を楽しむなどご自分の得意分野を発揮できる機会が提供できた。

21)総合事業ホームヘルパーステーション

・営業時間の明確化や提供範囲を限定することで業務効率化が図れた。

22)厨房

・食のステーション構想により、配食弁当の受注が増加した。

・直営の厨房で地産地消の食材を活用し、美味しい料理を提供できた。